

氏名 岩田 千穂

#### 主論文審査の要旨

ギリシアのペロポネソス半島にある古代都市遺跡メッセネでは、古代広場に隣接して劇場の建築遺構が出土した。本論文は、その出土遺構を直接調査することにより得られた資料に基づいて、建築的復元を行なった研究論文である。西洋建築の淵源が古代ギリシア・ローマ建築にあるのは言を俟たないが、劇場という正に西洋建築の始原に関する研究が、現地調査に基づいて今回のようなオリジナルの研究が行なわれたことは、大きく評価されてよい。

第1章では研究の目的と方法、ギリシア・ローマの劇場建築について、研究の背景が述べられている。第2章では、発掘された遺構について、その概況をはじめ出土した各部材について、その形状、寸法、材料等について建築的に詳しい報告が行なわれ、同時に部材の分類整理そして分析と考察が行なわれている。

第3章では、遺構の現状の観察結果から、劇場の変遷課程を考察している。その結果、劇場は前4世紀半ばから前3世紀の初め頃の推定される第1期において創建され、前3世紀半ばから前2世紀初めのヘレニズム時代と想定される第2期において、固定式舞台が可動式舞台に取って代わられた。第3期はローマ時代で、紀元1世紀にスカエナエ・フロンズと呼ばれる円柱で飾られた豪華な舞台建物が建設され、全体がローマ式劇場に改築された時期で、第4期は舞台建物の前部がローマのコンクリート工法で作直されたと思われるわずかな改変の時期である。

第4章が本論文の核心的な部分で、遺構の現状や出土した部材の詳細な分析をもとに、破壊された建築遺構の復元を、最終の第4期の段階で試みた部分である。これによると、客席部は2本の周回通路があることが判明し、結果として傾斜角度22度の客席は3層から成っており、また階段通路の痕跡から10本の通路で11区画に分割されていた。舞台建物は2層か3層で復元が可能であるが、残存する4種類の円柱部材の状況から2層の柱列をもつスカエナエ・フロンズとしての復元が最も確からしいものとして、復元を行なった。

第5章では、他の劇場との比較研究を行い、メッセネの劇場のギリシア建築史上での歴史的な位置づけを行い、また以上の分析と今後の課題を述べた。

全体の内容の評価としては、現地調査によって得られた一次資料を詳しく分析した研究であり、博士の学位論文として十分認められるものとして評価される。また審査付き論文2編、英語による国際会議論文1編を発表し、専攻における学位授与基準を十分満足しているものであり、本論文の内容とともに総合理解力の試験においても、最終審査の結果として十分な能力があると認められることを、ここに報告する

#### 最終試験の結果の要旨

審査委員会は、学位論文提出者に対して当該論文の内容及び関連分野全般について諮問を行なった。その結果、論文提出者は、当該分野及び周辺領域について十分な知識と理解力を有していると判断した。また語学力については、英語の論文を1編海外で発表していること、

また本論文の主要な部分については英語およびドイツ語の文献により関連の研究を行なっていること、そして5年間連続してギリシアの現地調査による外国語の経験を経たことから、外国語に関しても十分な能力を有すると認めた。以上の結果に基づき、審査委員会は最終試験を合格と判断した。

学位論文のインターネット公表については、特許など内容上特に問題にする事項はないので、全文の公表を行なうという結論に至った。

審査委員	環境共生工学専攻人間環境計画学講座	教授	伊藤	重剛
審査委員	環境共生工学専攻人間環境計画学講座	教授	位寄	和久
審査委員	環境共生工学専攻人間環境計画学講座	教授	伊東	龍一
審査委員	環境共生工学専攻人間環境計画学講座	准教授	植田	宏
審査委員	環境共生工学専攻循環建築工学講座	教授	村上	聖